



田村市立都路中学校 学校だより 第12号

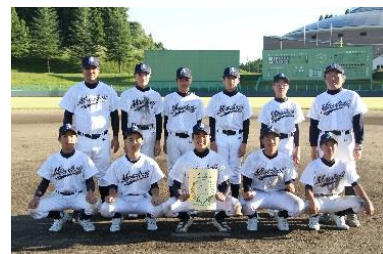
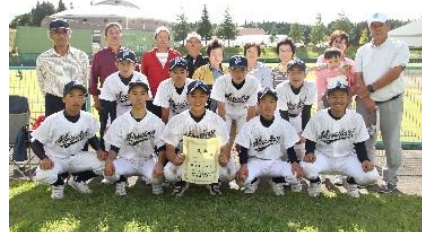
平成30年10月19日（金）
発行責任者：校長 田中 淳一
TEL：0247-75-2009

めざす生徒像：自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できる生徒

めざす学校像：志を育む学校 学び合い、高め合う学校 信頼され、愛される学校

県中地区中学校新人野球大会

10月6日（土）・7日（日）に行われた県中地区中学校新人野球大会において、本校野球部が第3位の成績を収めました。1回戦は高瀬中、2回戦は郡山支部1位の郡山五中を敗り、準決勝では本大会優勝校の明健中と対戦しました。準決勝は、中盤まで0対0の互いに譲らない締まったゲームとなりました。本校が先取点を取ってれば、試合結果はどうなっていたか分からないような緊張感のあるゲームでしたが、あと一歩のところで県大会出場は叶いませんでした。しかし、地域の皆さんにスポ少時代から培ってもらった心・技・体を、野球というステージで存分に表現した見事な戦いぶりでした。本大会での経験を糧に、本校野球部がさらに高い意識をもって努力していくことを期待します。



野球部	1回戦	都路中	16-3	高瀬中
	2回戦	都路中	7-6	郡山五中
	準決勝	都路中	0-4	行健中



都路小・中合同駅伝大会



10月3日（水）、第2回都路小・中合同駅伝大会を実施しました。薄曇りの絶好のコンディションの中、子どもたちはチームのため、応援してくれる人たちのため、そして自分自身のために、苦しいながらも懸命に走りきることができました。



また、多くの保護者や地域の皆さんの声援が、子どもたちの背中を押してくれました。校種や学年の垣根を越えて協力し、苦難を乗り越え未来を創る「都路っ子」に、期待膨らむ一日となりました。

2018 秋 ヤングアメリカンズ都路小・中学校

10月16日（火）、「2018 秋 ヤングアメリカンズ都路小・中学校」を開催しました。ヤングアメリカンズ（YA）は、音楽を通じた教育と公演を2本柱とする米国の非営利団体です。YAはロサンゼルス近郊のコロナという町に拠点を置き、世界各地から集まる10代後半から20代のキャストと呼ばれる若者、約300名で構成されています。YAのキャストになるためには、オーディションに合格する必要があります。オーディションには毎年世界各地から約4,000名が挑戦しますが、そのうち入団を許されるのは100名強に過ぎません。入団が許されるとYAカレッジに入り、歌とダンスの膨大なレパートリーを覚え込むだけでなく、発達心理学、教育学、教授法などの教育メソッドも勉強します。研修後半には、麻薬中毒患者の更生施設、少年院や孤児院など、厳しい環境に置かれている子どもたちとの教育実習にも取り組みます。この研修期間を経て初めて彼らは、アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、日本などのツアーのオーディションを受ける資格を手に入れます。



YA東北ツアーは、多くの企業・団体の支援を得て、東日本大震災が発生した2011年6月に立ち上がりました。2017年までにYAを開催した学校は延べ302校、YAに出会った子どもたちや先生方は延べ31,734名となっています。YAのミュージック・アウトリーチと呼ばれるワークショップは、学校やコミュニティを訪れ、小・中・高校生たちと一緒に、わずか1～3日間で約1時間の歌とダンスのショーを創り上げる教育プログラムです。また、世界共通言語である音楽や英語を通して、数十～数百名の子どもたちが共に学び、お互いの強みを尊重し、自分の可能性を発揮するプログラムとなっています。

「YA都路小・中学校」には、都路小5・6年生と都路中全校生及び教職員が合わせて90名参加しました。訪れたYAのキャストは38名です。「来年もYAを都路中で開催してほしい。」という子どもたちのメッセージが、今年のワークショップ開催につながったのです。そして、開催したい理由を子どもたちに聞くと、「あの感動は毎年味わいたいものだから。」との言葉が返ってきます。そのように子どもたちを突き動かす「感動」とは、一体どのようなものなのでしょう。外国人と話したり、一緒に歌やダンスを練習して披露したりすることだけではない何かがあると、私はワークショップに参加する度に思います。ぜひご覧いただいて、その「感動」を皆さんと共有できれば幸いです。そして、YAで培った力が、子どもたちのこれからの生活や人生に活かされることを願ってやみません。

